



## C2021-06 祈りの秘訣

### [今月の聖書]

#### 詩篇 (116:1-10,15,18)

116:1 わたしは主を愛する。主はわが声と、わが願いとを聞かれたからである。 116:2 主はわたしに耳を傾けられたので、わたしは生きるかぎり主を呼びまつるであろう。 116:3 死の綱がわたしを取り巻き、陰府の苦しみがわたしを捕えた。わたしは悩みと悲しみにあった。 116:4 その時わたしは主のみ名を呼んだ。「主よ、どうぞわたしをお救いください」と。 116:5 主は恵みふかく、正しくいらせられ、われらの神はあわれみに富まれる。 116:6 主は無学な者を守られる。わたしが低くされたとき、主はわたしを救われた。 116:7 わが魂よ、おまえの平安に帰るがよい。主は豊かにおまえをあしらわれたからである。 116:8 あなたはわたしの魂を死から、わたしの目を涙から、わたしの足をつまずきから助け出されました。 116:9 わたしは生ける者の地で、主のみ前に歩みます。 116:10 「わたしは大いに悩んだ」と言った時にもなお信じた。 116:15 主の聖徒の死はそのみ前において尊い。 116:18 わたしはすべての民の前で／主にわが誓いをつぐないます。

#### ピリピ (4:6,7)

4:6 何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。 4:7 そうすれば、人知ではどうい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。

お元気でお過ごしでしょうか。今月は「祈りの秘訣」と言うテーマで祈りを通しての「神との交わり」についてお話したいと思います。

今年5月23日がペンテコステ(五旬節)でした。イエス・キリストの昇天の後、「彼らは皆、心を合わせてひたすら祈りをしていた」(使徒行伝 1: 14)と記録され、120名ばかりの昇天を見送った人々が聖霊を待ち望んで祈っていました。その祈りの中には、悔い改めがあり、反省があり、弟子団の再建がありました。彼らは聖霊を受けるとい意味をよく理解しないまま、ただひたすら神の御助けをいただくために居住まいを正す姿が見えます。迫害の時代に、神よりの御助けなくして生き延びることができないことを実感しながら、しかし神の力をいただくには自分たちが霊的に整わなければならないということを感じていたと思います。それは神との「交わり回復の時」でした。主の昇天から10日目、復活から50日目、イスラエルの七週の祭りという収穫感謝祭の日に、激しい風の音と共に、舌のようなものが炎のように分かれて一人一人の上にとどまったのです。聖霊降臨でした。(使徒行伝 2:2,3)

アダムとイブが罪を犯してエデンの園を追い出された時失ったものは聖霊の臨在でした。人類の不幸の歴史はその日から始まりました。失われた聖霊を再び人類に与えるために、神は長い計画をもってイエス・キリストの十字架と復活の道を開きました。文学や哲学の世界では人間の幸福の条件は愛であるといひます。しかし聖書は聖霊の回復であると語っているのです。

祈りとは全存在をかけて神に向かうことであり、信仰を行動に移すことです。詩篇116篇の記者は、陰府の苦しみの中でひたすら主の御名を呼んだのです。絶望的であればあるほど彼の叫びは鋭く天に届きました。もはや頼るべきお方はただ神のみという強い思いが、神の御助けを引き出す鍵となりました。もちろんこの詩篇の中にも十字架のイエス・キリストが隠されています。

聖霊の執り成しをいただき、兄弟姉妹の祈りが鋭い叫びとなって天に届き、神の御助けをいただくことができますようにお祈りしています。

#### (お知らせ)

新型コロナウイルス感染拡大が止まらない現状の中で、今しばらく集会を持つことができません。自由が丘チャペルにおいても、また各地の地区集会においても休会となりますがご理解下さいますようお願いいたします。

「神の前に立って」

山崎嗣男(千葉県)



また友達感覚でお手紙を書きました。気分を害したら許してください。変異ウイルスが猛威を振るう中、3回目の緊急事態宣言が出され、またライトハウスにいけなくなってしまいました。小田先生、もう少しではなくこれからも頑張って伝道を続けてください。先生がいなくなると困ります。西洋には “Age is just number” 「歳なんかただの数字に過ぎない」という言葉があります。先生はメッセージの中でマッカーサー元帥が執務室に掲げた、サミュエル・ウルマンの標語、「人は歳月を重ねても、いつまでもBoy(少年)でありなさい」のことを話していましたね。先生、老け込むには早いですよ。僕自身のことを考えるとあまり大きな事は言えませんが、体に気をつけて伝道を続けてください。

この新型コロナウイルスは神の人類の罪の審判の印であると先生も言っておられましたがその通りかもしれません。ワクチン接種ができればそれで終わりというようなものではなく、神の前に謙虚に立ち帰る時かもしれませんね。2020年、2021年は神のご計画の中のターニングポイントだったような気がします。

昨年は安倍首相の突然の辞任がありました。「私の手で憲法改正の年にしたい」と言っていた方が、憲法9条を改正し数の力で法案を通そうとしましたが、大きな力が働いてそれが止められました。オリンピックも成功させ、日本の歴史に名を残す総理大臣として経済も復興させようとしたのですが、新型コロナによってそれも阻まれてしまいました。私個人としては「平和憲法を守りなさいと言う神の御声」かもしれないと思っています。

話は変わりますが、先生がCDメッセージの中で「エンジェル」の本のことを語っていましたね。ビリーグラハムさんの本でした。僕がロンドンに住むことになった時、その出発の日、多くの友達が新幹線のホームに見送りに来てくれました。餞別を渡す者、プレゼントを渡す者もいましたが、1人の友人が紙袋を渡してくれました。新幹線の中で袋を開いてみると「エンジェル」という本でした。その冒頭に、やがて物質文明が終わりを告げて、精神文明が来ると書かれていました。そのことに気づいている人は多くいるとは思いますが、今そのような時代が来ていると思います。それから何年かして、ロンドンから日本に帰るときに、ある友達からプレゼントされた本がまた「Angel」だったのです。

僕はイエス様の再臨を信じています。まだ地上はそういう状態にはなっていませんが、人間の力では収拾がつかなくなった時、彼らが天を見上げ、神を呼び求める時、イエス様が父なる神の栄光と、人の子の栄光、そして大いなるみ使いの栄光のうちに、天より再臨してくださる。そのイエス様を見上げたとき、彼らの頭の中を走馬灯のように駆け巡るものがあります。その日彼らは初めてイエス様こそ唯一の救い主であることを知るのです。それに向かって地上の歴史は動いているわけですね。

僕は先生を感動させるような文章は書けませんが、これからも懲りずに僕の拙い手紙を読んでいただけたら嬉しいです。朝起きるとすぐに神様にご挨拶して、「今日の聖書」を朗読し、CDメッセージを聴きませす。朝食を済ますとちょうどCDが終わります。その後先生のコンサートライブとスピリットオブ聖歌のパート2を声高らかに歌って僕の毎日が始まります。

「みよわたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれの仕業に応じて報いよう。わたしはアルパであり、オメガである。最初の者であり、最後の者である。初めであり、終わりである。」(ヨハネの黙示録 22: 12, 13)